

家族の世話などを日常的に行う子ども「ヤングケアラー」の実態を調査 ～世話をしている人のうち36%が「生活に影響が出ている」と回答～

市は、本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話を日常的に行う子ども「ヤングケアラー」の実態を把握するため、市独自に、5月に小学4年生から高校3年生までの約5万人を対象に調査を実施しました。その調査結果を速報値として公表いたします。

ヤングケアラーは、年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担を負うことで、勉強に励む時間や部活に打ち込む時間など「子どもとしての時間」を引き換えとして家事や家族の世話をしており、過度な負担により学業等に支障が生じたり、子どもらしい生活が送れなかったりするなど、社会的な課題となっています。

本調査は、対象者49,555人にWEB上のアンケートフォームで27の設問を設け実施しました。対象者のうち22,764人が回答し、その約4.8%（1,084人）が「世話をしている家族等がいる」と回答。その「世話をしている家族等がいる」と回答した者のうち、約36%（393人／1,084人）が「世話等により生活に影響が出ている」と答え、「自分の時間が取れない」、「勉強・宿題に影響が出ている」との声が多くありました。

市では、10月上旬を目途に調査結果を取りまとめ、詳細な調査結果をホームページ等で公開するとともに、今回の調査結果をもとに、子どもやその家族への具体的な支援策について検討を行っていきます。

記

【ヤングケアラーに関する実態調査】

調査期間：令和4年5月6日から5月27日まで

調査対象：小学4年生から高校3年生（相当年齢含）

調査方法：WEB上のアンケートフォームによる調査。市立小・中学生は、各学校を通じて、子どもに付与されている端末を用いて実施。高校生等は当該URLが記載された案内を郵送で送付。

結果概要：

① 調査対象 49,555 人中 22,764 人が回答（回答率約 46%）

小　　： 17,025 人中 11,342 人（67%）

中・高： 32,530 人中 11,422 人（35%）

② 回答者のうち約 4.8%が「世話をしている家族等がいる」と回答

小　　： 11,342 人中 761 人（6.7%）

中・高： 11,422 人中 323 人（2.8%）

③ ②のうち約 36%が「世話等により生活に影響が出ている」と回答

小　　： 761 人中 232 人（30%）

中・高： 323 人中 161 人（50%）

⇒特に「自分の時間が取れない」「勉強・宿題に影響が出ている」という回答が多かった（約 48%）

④ 回答者のうち約 1.6%が「自身がヤングケアラーだと思う」と回答

小　　： 11,342 人中 224 人（2.0%）

中・高： 11,422 人中 131 人（1.1%）

⑤ 回答者の約 62%が「ヤングケアラーという言葉を知らない」と回答

小　　： 11,342 人中 7,698 人（68%）

中・高： 11,422 人中 6,392 人（56%）